

台風 19 号における被災者支援活動の活動報告

11月28日～12月21日まで、週3日ではありますが、被害が大きかった宮城県丸森町に行き、丸森町社会福祉協議会のボランティアセンターの活動に参加して参りました。ボランティアセンターでは、被災者それぞれのニーズを調査し、ボランティアにもできる仕事を集まったボランティアへマッチング（割り振り）していました。

通行止めが解除され、やっと手を入れられるようになった地域もありますが、年末ということで、社協のボランティアセンターも12月22日で一度閉設となりました。来年の開設は地域のニーズ調査が終了後、決定されるそうです。

東北教区から老若男女が参加し、また神戸教区、九州教区からも支援活動に駆け付けていただきました。本当にありがとうございました。

活動終了後に寄せていただいた報告書を、一部ではありますが紹介させていただきます。

災害対応デスク 赤坂

東北教区 20代男性

活動地域：大内地区

すでに数日間ボランティアの手が入っているお宅を男性5名、女性2名の7名グループで訪問。庭の畑に流れてきた農業用の藁と泥の掻き出しを行った。

表面は湯いて軽かったが触れると粉塵が舞い、下は泥と混ざりとても重くなっていた。

それらをトンバックに詰め、活動が終了する頃には23袋がいっぱいになっていたが畑の一部と庭の周囲が終わっただけで、ビニールハウスの中や作業通路などは手が付けられなかった。

グループの女性たちは窓の清掃とサッシに詰まった泥の洗浄を行っていた。

東北教区 60代男性

活動地域：金山地区

場所は丸森町ボランティアセンターから徒歩で10分ほどの一軒家での作業です。人員はボランティアセンターで振り分けられた女性2名と男性4名で、サブ拠点のオープンジャパンで女性は別家屋の方で部屋の整理整頓と主に洗濯を担当。男性は1階で床上浸水した大人の背丈ほどのところまでの壁の削り（はつり）作業を担当しました。作業はハンマーやバール等で壁をたたき割ります。その後タワシや歯ブラシで細かいゴミを取り除きます。削りした壁材は土嚢に詰めて搬出し軽トラックで運搬します。（トラック運搬はオープンジャパン担当）作業は男性の方は結構腕の力がある作業で、埃も多く発生するので防塵マスクの着用は必須と感じました。今回の作業ではそれほど重労働とは感じませんでした。

東北教区 50代男性

金山神社・金山城跡近くのお宅10名でうかがった。お宅の水路の復旧と泥だしを行った。伺ったお宅の上に神社やお城がある。宅地に崩れた土砂が流れ込み、庭に堆積したようだ、数日前の雨とにじみ出す地下水の影響で泥が重くて大変だった泥出しをするために踏ん張ると、水がにじみ出しぬかるみとなるため、作業がなかなか進まなかった。また、土砂に含まれる木の根が厄介であった。突然現れたトラックのおかげもあって時間内になんとか作業を完了できた。暖かい休憩場所の提供や、お茶やお菓子の準備などが心遣いに温かさを感じた。

九州教区 50代女性

床上浸水したために泥だらけになった衣類の洗濯と、日用品を洗った。被災して日数も経っているためなかなか泥が落ちず、下洗いをした上、歯ブラシなどで擦っても満足のいく仕上がりにはならなかった。

また「ゆっくりお話を聞いてさしあげてください」と担当の方に言われていたので、仕事をしながらとりとめのない話をしたり、近所のお宅に残された猫達がたくさん家に入ってくるため、それを一緒になって外に出したりした。

テキパキと作業をすることもボランティアとしては大事なことはあるが、被災された方の気持ちを最優先にして、ゆっくりとしたい方にはそれなりに、心のふれあいを大切にすることも重要だとあらためて思った。

東北教区 60代女性

ボランティアが入るのは3回目というお宅で仙台から参加した5名で活動。すでに床板がはがされてある和室の床の間あたりの破損断熱ボードを外し、隙間に入り込んだ泥をかき出し清掃する作業を最初におこなった。そのあと、大きな窓を外して水洗、サッシのレールに詰まった泥を洗浄して立てつけた。レール洗浄の途中にレールにはめてあるフレームが外せることに気づき外したところ、かなりの泥が入り込んでおり洗浄をやり直したり、南面3か所の窓枠の清掃で1日を要した。築5年の大きなお宅ですでに板材も積まれており改築の見通しもあるようだが、家族は現在は近くの別宅に住み毎日通いで復旧作業に当たっているとのこと。隣接の田畑は深いところで1メートルぐらいの汚泥で覆われていた。復興への道のりの厳しさを思った。

ボランティアセンターでの活動申し込み人数は前回(11月)よりだいぶ少なかった印象。当日は暖かで活動しやすかったが、12月ともなると寒さ懸念のゆえに参加を控える状況は否めないのかもしれない。

東北教区 20代男性

山間のお宅で男性10名での作業だった。

引継ぎ書では家屋周辺の泥掻きとのことだったが、向かってみると家屋周囲に側溝を作るという作業だった。もともと家から離れたところにあったという側溝は、山から崩れてきた土砂で跡形もなく、また地中から湧き出た水が家の脇に溜まっていた。

家の周囲に沿って泥を掻き出し、掻き出した泥を土嚢袋に入れそれを側溝沿いに固めた。また器用な方がいて、山から流れてきた岩も使い側溝が崩れないようにしていた。

午前中で目処が立ち、6名は他の現場へ向かった。幅60cmほど、長さ30mほどの側溝に沈殿した泥を取り除く作業現場だった。

側溝へは2か所からしか入れなく、一輪車はもちろん人がすれ違うのも難しく、また深さもあったため、2時間弱の作業で半分も進まなかった。